

あまみ温泉 「南天苑」

年次総会

見 学

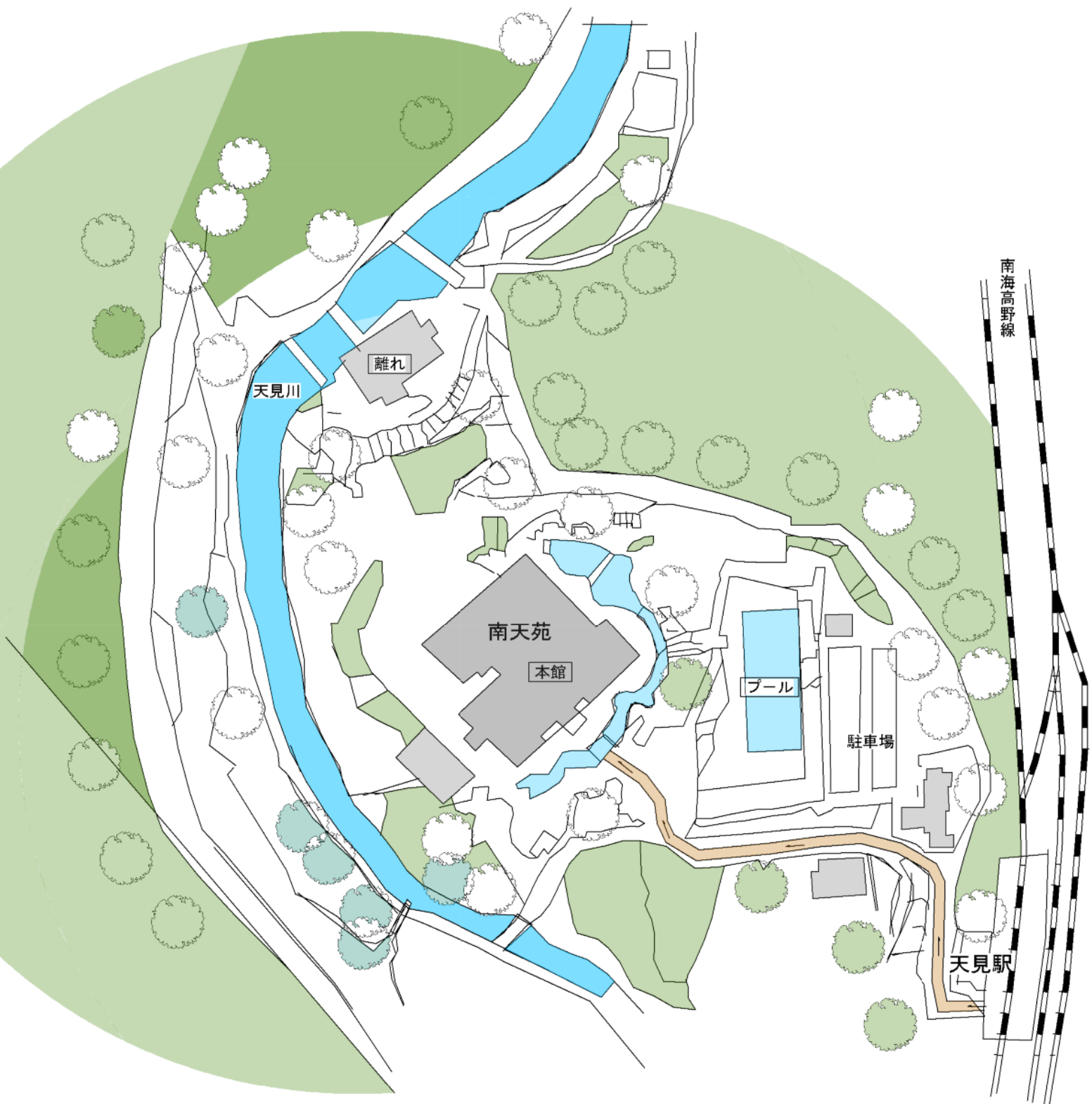
納涼会

令和6年8月24日(土)

建築士の会東大阪

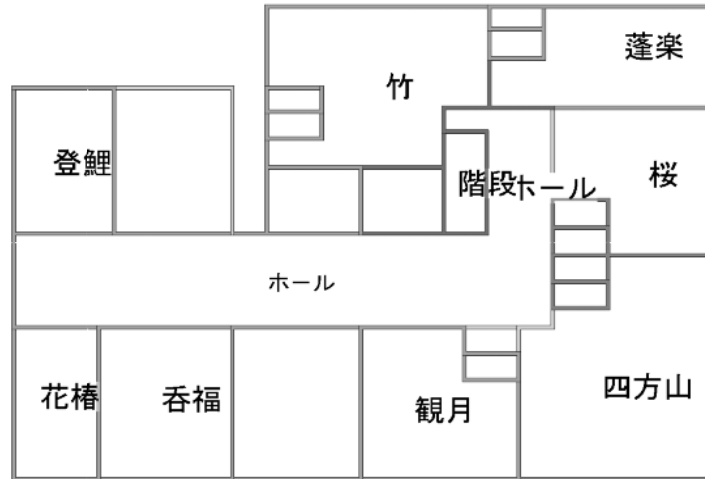
あまみ温泉

南天苑

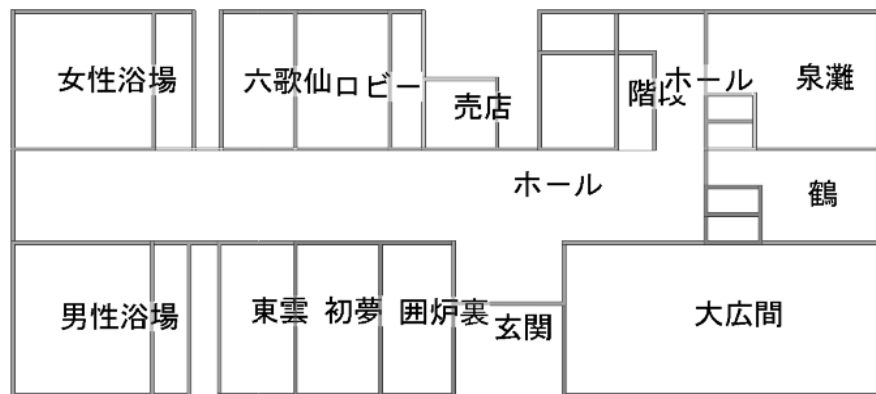


あまみ温泉

南天苑



2階平面図 (略図)



1階平面図 (略図)

あまみ温泉 「南天苑」

(南天苑の客室案内資料を参考)

山裾に佇む「あまみ温泉」そして憩い宿

平成28年の産経新聞「近ごろ巷に流行るもの」より引用する。

大阪府河内長野市の南部、ほどなく和歌山県という奥まった地にある温泉宿が今、外国人観光客の注目をあつめている。

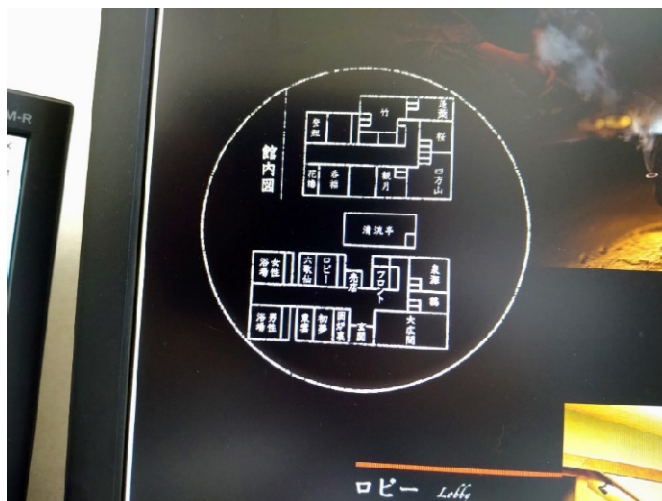
昭和24年創業の館「あまみ温泉南天苑」。母屋は東京駅丸の内駅舎や日本銀行本店を手がけた日本代表する建築家・辰野金吾が設計し、移築された純和風建築。

築100年以上の歴史を誇る趣深い建物と周辺に広がるのどかな里山風景が外国人の心をかんでいるようだ。

河内長野市史などによると、天見温泉は南海電鉄などが「有馬温泉と肩を並べる温泉郷にしよう」と昭和初期ら開発を始めた。数件の宿が建てられたが、「南天苑」の女将が嫁いできた昭和58年には、今も続く「南天苑」宿の1軒になっていた。外国人の観光客はツイッター・SNSなどにより平成27年には外国人の宿泊客数は2.5倍の約5350人に急増し国籍47カ国に上った。

本館は日本建築家の辰野金吾が大正2年に手がけた建築で、もともとこの建物、堺市の大浜公園に出来た娯楽保養施設「大濱潮湯」の別館として完成し、昭和10年に天見温泉の開発に伴って現在の地に移設され、大阪の料亭の松蟲別館として運営されてたが、24年には南天苑が引き継いだ。「南天苑」は山に囲まれた水田の広がる風景に抱かれ、春には桜、秋には紅葉が優しく人を包み込む、また外国人の方には人気が高い高野山へのアクセスの良さが好まれている。

「南天苑」の女将、山崎友起子さんが日本の伝統や文化など「純和風」の価値を認めて下さるのは非常にありがたいと、これからも、建物や宿の持つ伝統的な雰囲気を守って行きたいと語っている。



「南天苑」館内案内図

◆客室 「泉 灘」◆

建築当時の趣をもつ



1 階客室の北西の庭を見る



広縁の壁と天井を見る
縁桁と化粧垂木
化粧小舞と天井板
広縁に長押を持つ



簾障子と腰の鏡板
(1 枚板の彫り物)



狎潜りのデザイン（自然木にて）

◆客室 「桜」◆

2 階の客室で春には庭の桜が額縁内で、満開の風情が楽しませて戴けます。

1 間の床と脇床を持ちます、床柱は桜の皮付と思います

肘掛窓から桜を楽しむことも、窓式台に腰を掛け手摺腰かけ楽しむよしと思います

◆客室 「東雲」◆

堺大浜潮湯創建当時は、個室家族湯であったものを昭和 10 年の移築時に和風客室に改装されています。1 階南西坪庭に面しています、
客室は廊下に面した控えの間の丸窓や鶺木の天井、本間床の間の意匠など、随所に数寄屋の風情をのこしています。



広縁の木製建具デザイン



床の間の落とし掛け：自然木（蔦の巻き）



屋久杉の鶺木の天井板（鶺杢目）
（雉子木目：木目が細かい）



飾り窓：障子落とし込みと自然木



室内側から見た飾り窓（組子障子）



廊下から見た飾り窓（自然木との組み合わせ障子引き分け）

◆客室 「登鯉」◆

2階の角部屋で、北西に面した角丸棧のガラス窓が開放的です。
床の間の意匠、面皮柱、竹細工の欄間など、真行草でいうところの「草」タイプの部屋
「真」、「行」、「草」の構えとは、床の間に最も厳格な決まりにもとづいてつくられた
「真」の構えと、やや崩した数寄屋書院風の「行」の構え、自由で閑寂な茶室風の
「草」の構えの三つの構えがあります。「真」「行」「草」はもともと書道における漢字
書体である真書・行書・草書からきていて、真は楷書、草は風雅な草書で、行はその中
間を意味します。



壁には腰張りがされています
壁や衣類の汚れ防止のために貼ります



簾障子越しに庭を楽しめます
簾が強い光を遮り、室内は涼しく、簾
の隙間から風が緩やかに吹き抜ける



面皮付長押が使用されている
長押は柱と同材で施行されています



壁床で柱から自然木を出している
飾り窓も自然木が使われています
落とし掛けは竹で施工されています

◆客室 「鶴」◆

北側に1間の床をもち、西側に半間の床脇を設けています
お部屋から濡縁を通して、瓢型の庭池に水を求めて鳥がさえずる
床には下地窓があります

◆客室 「初夢」◆

1階で堺大浜潮湯の当時は個室家族湯として利用されていたものを、移築時に客室に
改装されたお部屋として紹介されています。
踏込床（簡易的な形式で、本来の様に床部分が高くなっておらず、畳と同じ高さです。）

◆客室 「六歌仙」◆

坪庭の風情や縁側、昭和初期の趣きがあります、堺大浜潮湯家族湯当時は個室家族湯で
あったものが、移築時に客室に改装されたものと思われますと説明されています。
床も踏込床と思われます。庭側には、肘掛窓障子がり、下部には掃出し窓があり、引き分
けになっていそうです。掃出し窓に手を添え開かれると、切り取られた借景はあなたの世
界へと導くかもしれません。

◆客室 「吞福」◆

2階の、南側に面した客室です。1間の床の両側に物入、押入があります。
踏込床で来壁がなく、幕板になり落とし掛けがなく掛け軸用の金具が廻り縁に取付けて
ます。

◆客室 「観月」◆

客室からは金剛葛城山系が見え、客室からお月さまが良く見えますと案内されています。2階ですので木製の手摺が設置されています。

1間床で、天井は竿縁天井になっております。

◆客室 「蓬莱」◆

蓬莱とは、古代中国で東の海上にあり、仙人が住むと言われていた仙境の1つと客室についての説明がされています。

2階東向きに窓が設けられ、庭には瓢型の庭池があります。

壁には腰張りがなされています。

本床で床柱はまつの皮付らしきものです、床框は漆塗か黒檀に見えます
飾り窓が円形です

2階で木製手摺付きで、窓敷居高さが38cm位で、手摺高さは50cmなので、低く感じます。

◆客室 「花櫓」◆

2階の客室で、本間4.5帖と3帖の控えの間付きの南西の角部屋になります
肘掛窓に木製の手摺がついております

詳細については現地の確認ができていません

◆客室 「四方山」◆

2階で東南の角部屋になり、東窓と南窓の庭は四季折々の表情を見せてくださいます
畳の間と内縁になっているゆかの仕上は、板敷でソファーに座り時の流れに身を任せて
みて下さい。肘掛窓に寄りかかり夜空を見つめるもよし、池に映る月明りに身を任せるの
も宜しかと思います。

◆客室 「竹」◆

床は本床で床柱は鍔丸太で落とし掛けは竹、床脇の壁には内障子の引き分けで丸窓
です。そして堺大浜潮湯家族湯当時から、大阪名所図絵も描かれ、細部に渡る数寄屋意
匠が移築後も残っていることの証明を感じさせてくれています

◆客室の木製手摺◆



2 階客室の手摺の形状

◆客室のガラス障子：角丸部分◆



ガラス障子のデザイン



建具のコーナー部の角丸



床の間の落とし掛けの代り



階段部の転落防止柵（変木と竹の組み合わせ）



南天苑の瓢池越しに「苑」を見る



離れ「特別室 清流亭」を見る



天見駅から南天苑に向かう道中に迎え

床、床脇と仕切り障子、仕切り欄間の参考例

- 床の間の区別には本床と特殊床があり、本床には上段床（厳格、高雅な室につける床）と本床、蹴込床（普通住宅の厳正な気品の床）があります、また特殊床には洞床（塗廻し床）と踏込床（ややくだけた味の床）、袋床（風雅な気持の床）そして織部床、釣り床、置き床（室の上品さを保つ意味の手軽な床）があります。

本床は縁側に接して上席に設け、奥行き（3尺）、巾（1間）で畳一帖敷きが普通だが座敷の巾が二間以上の場合は床の巾広くするが、部屋の経済を考えて小さくしても差支えがない。

床には床框、床地板、落掛、天井板になり、掛け軸の取付けに正面壁の上に塗り込んだ「夢想四分一」があり、稲妻釘が取付けられる、掛け軸により一幅、双幅、三幅の場合がある。落掛け壁裏は見えないところであるので、荒壁のままであるが、関節照明が取付けれて夜間の軸物の鑑賞への行き届いた仕法である。

- 特殊床のなかの上段床は本床より一層厳格なもので、框の高さだけ床を高くしたもので、主君が家臣と対面したところとされる。

琵琶床とは床の脇に琵琶棚があり琵琶台とも言い床の間の半間ほど一段高くして板をはり、ここに琵琶を飾ったところからこの名があると言います。

蹴込床は床框を用いず蹴込板を畳寄せの上端に小穴に立て、その上に堅木の床板を小穴に載せ架け、充分に拭き込んだ艶光りのする床である。

洞床は柱や廻り縁などは見せず、丸身を着けて塗り込んでしまう床である。

袋床は正面の片方または両方に幅の狭い袖壁を設け、床全部を開放しないのを言う。

踏込床は床地板を上げずに、畳面と同一面にする、床框の必要なく奥行は比較的に深い。また、織部床は床框や落とし掛けも用いず、奥行きもなく、壁そのままに軸物を掛ける最も簡単な床である、釣り床は織部床を加工したもので天井に釣り束を下げ、それに落とし掛けを設け、下は框も地板なく畳敷きのままである。また壁床は釣り束の代わりに壁の柱から自然木の曲がったものを天井に向かって持ち送り型に取付けたのである。

- 床脇については、床の隣の飾り棚をいい、意匠によりさまざま組合せがあります。

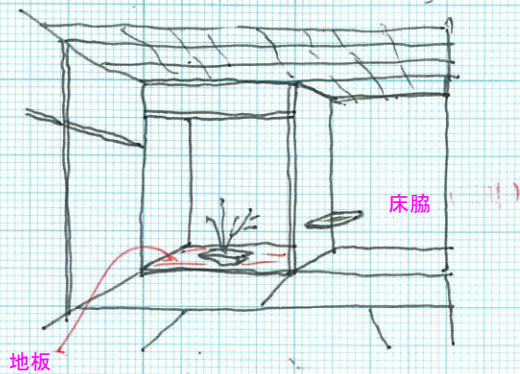
棚の種類には、袋棚、違い棚、釣り棚、通し棚があります。

袋棚は違い棚の下段に地袋を組み合わせた形、床に開けるちん潜りのデザインもバランスを取るのに重要である。また違い棚は棚の一般的な形です、棚板を段違いに設け、えび束で繋ぐ。上段の端部には筆返しを設ける。吊り棚は一般的には入り済みに棚を設え、棚の出隅を上部から吊る、通し棚はたなとして簡素な形、通し棚上部に炮烙棚を合わせて、意匠性を加味しておる

- ・ 仕切りには襖、障子、板戸・格子戸などの建具がありますが、欄間については内法鴨居（又は長押）の上を来壁にする代わりに、障子、板透かし彫りなどの組み物を嵌めて採光通風及び体裁を構えたものである。竹の節欄間、組子欄間、透かし欄間、板欄間などがあります。竹の節欄間は社寺などの客殿、書院などでよくみられる。組子欄間は組子を組んで用いたもので、箴欄間は気品高い趣がある、ほかには菱組、松葉菱などがあります。透かし欄間には大胆な意匠や三溪園臨春閣の波形の透かしなどがあります、板欄間には室と室との間仕切に内法の襖上の来壁かあるいは書院の欄間に用いられた
- ・ 仕切りの明かり欄間には、角柄障子欄間、櫛型障子欄間、格子欄間、下地欄間円があります。角柄障子欄間は縁側を角柄留で開け、室内に障子をたてる、櫛型障子欄間は壁を櫛型に抜いて室内に障子を設ける。格子欄間は引き違い障子を室内に設け縁側に格子を取付ける。下地欄間は小壁に下地を設け、室内に障子を入れたもの。

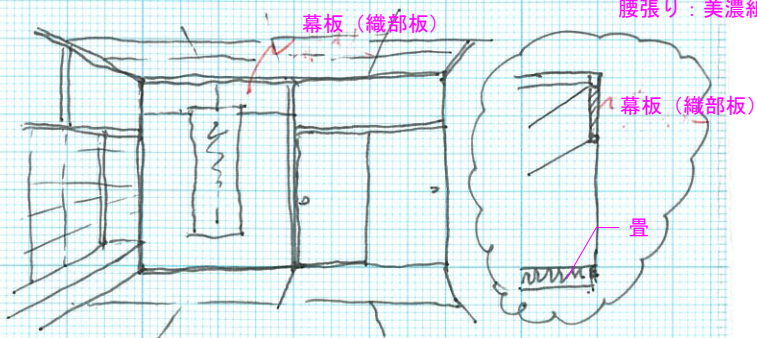
参考文献（別紙の絵図も含む）

- ・「新版 日本建築 上巻」澁谷五郎・長尾勝馬共著
京都 学芸出版社 発行（第20刷）
発行者 京極迪宏
- ・「Welcome to Japan House !
知っておきたい住宅設計の基本
日本の住まい」 第2刷発行
著者 中山 章
株式会社建築資料研究者 発行
発行人 馬場栄一
- ・「茶の湯案内シリーズ⑦ 茶室の見方」
昭和59年9月17日 第1刷発行
著者 中村昌生
発行者 石川晴彦
発行所 株式会社主婦の友社



踏込床

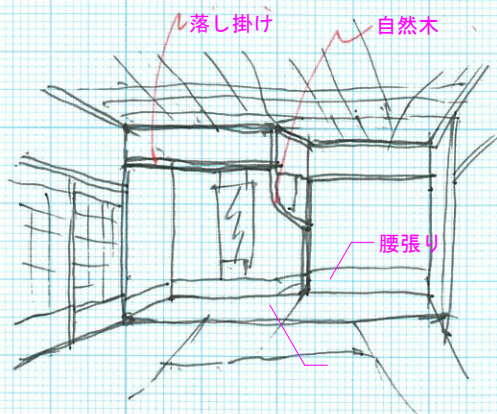
地板が畳面と同じ



織部床

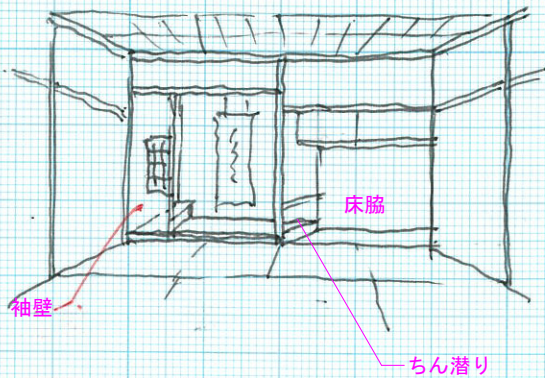
床框も落し掛けも用いず、最も簡単な床

腰張り：美濃紙を横巾一枚半の高さ、縦一枚をはる



壁 床

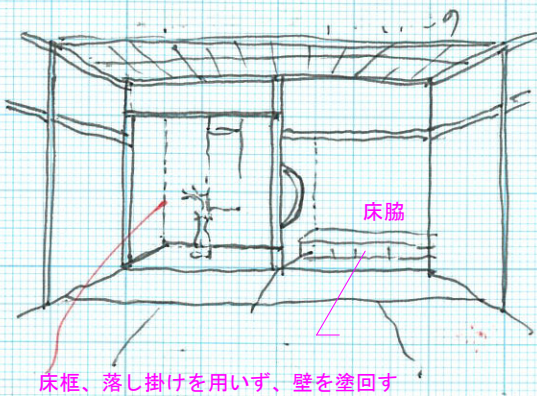
釣り束の代わりに、自然木の曲がったものを
壁の柱から天井に向かって持ち送り型にとりつける



袋 床

袖壁が片袖又は両袖があり床全部を開放しない
上袋戸棚の場合

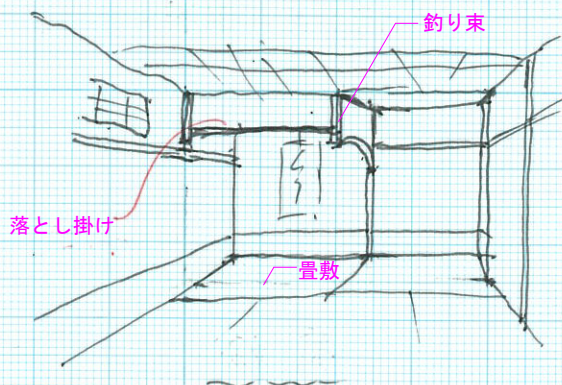
ちん潜りのある場合



洞 床

隅柱を塗りつぶした場合

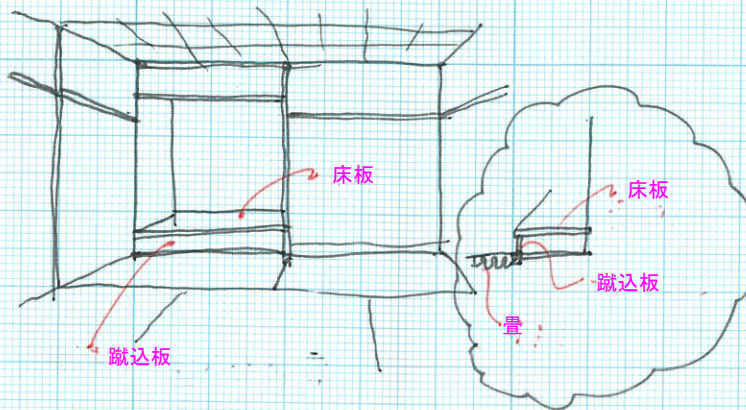
地袋のある場合



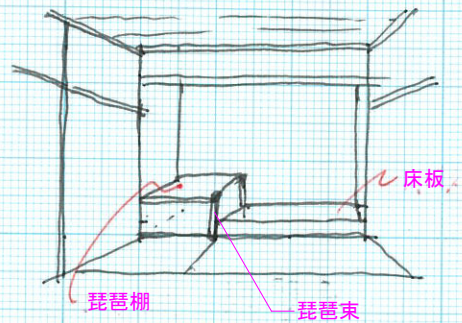
釣り床

落とし掛けあって床無き

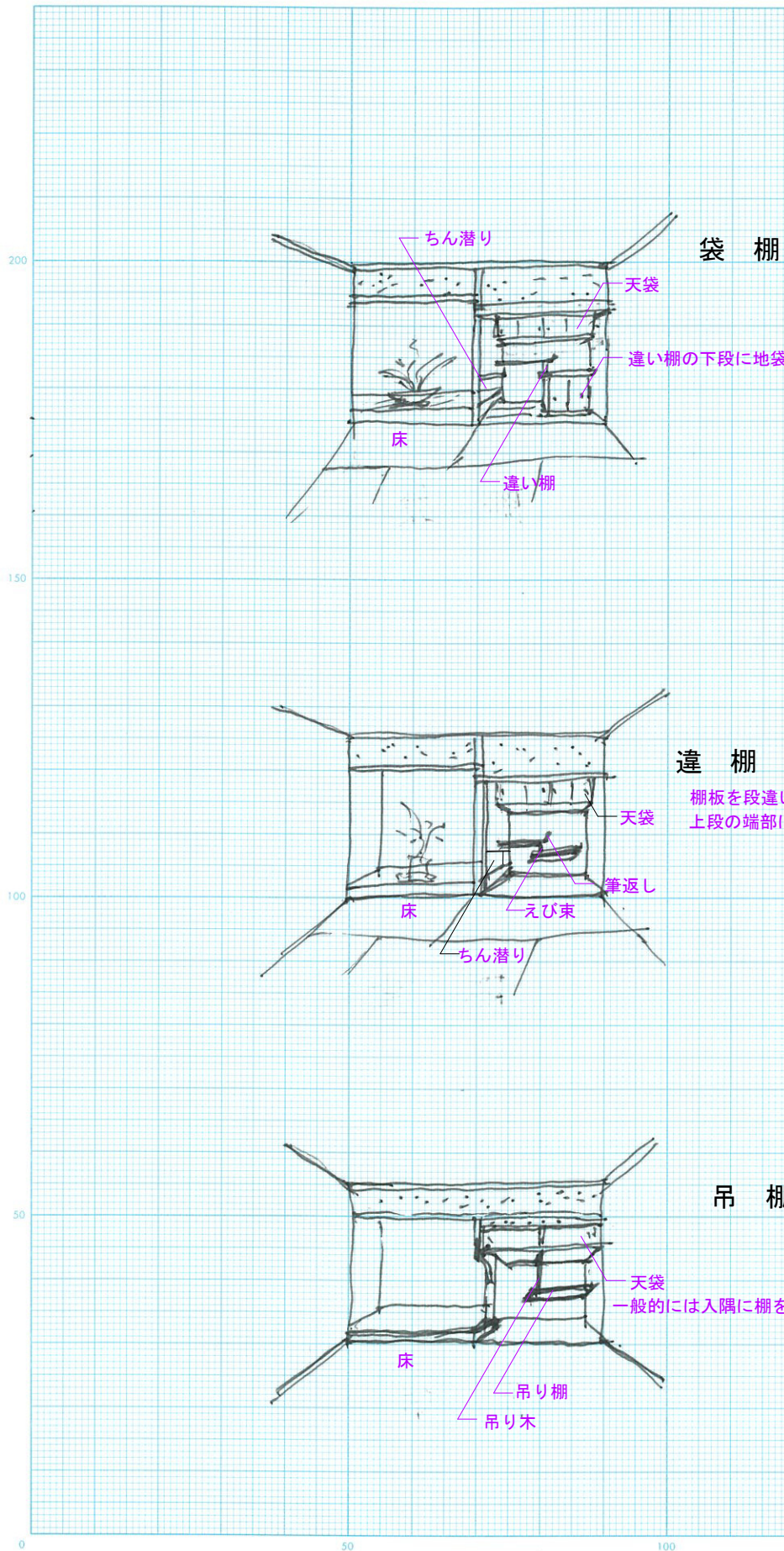
蹴込床

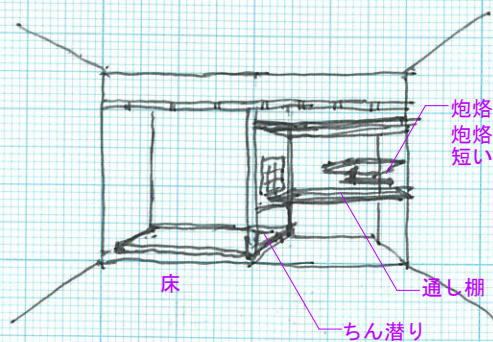


琵琶床



琵琶棚とは、楽器の琵琶を置くための床脇の棚
 琵琶棚は煎茶の茶室によく使われる
 煎茶と音楽が、とても重要である





通し棚

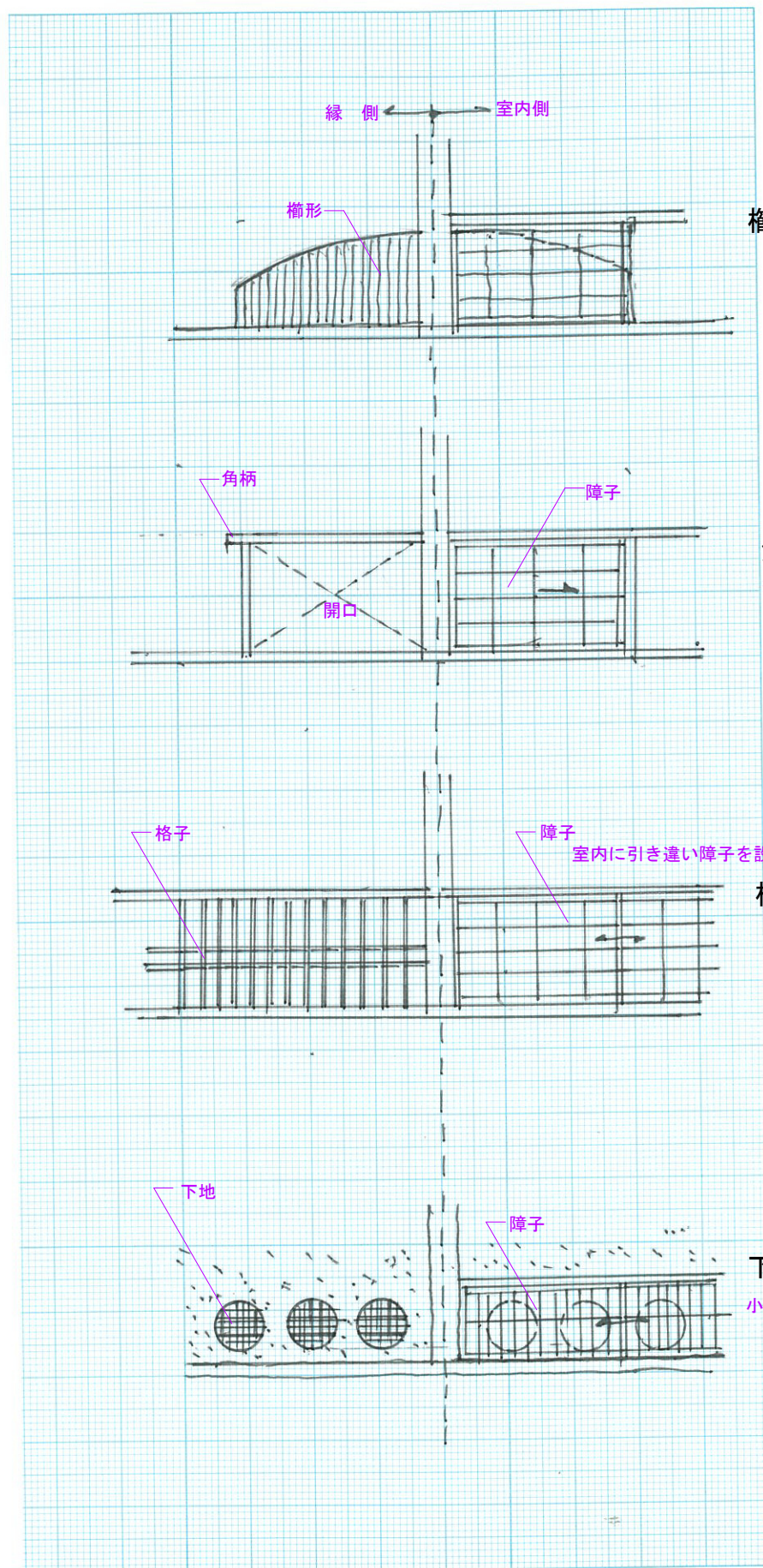
炮烙棚

炮烙棚は杉材で、長方形の一角を斜めに切った上棚と短い方形の下棚の間に、狭間透かしのある脇板を付けた二段棚

床

通し棚

ちん潜り



楕型障子欄間

壁を楕形に抜いて室内に障子

角柄障子欄間

縁側を角柄に留めて開け、室内に障子

格子欄間

室内に引き違い障子を設け、縁側に格子を取付ける

下地欄間

小壁に下地を設け室内に障子